現代日本論基礎講読「論文作成の基礎」

# 第5講　構文解析

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[**テーマ**]　文の構造を解析し、読みやすさの評価と改善方法を考える

## 1　今回の課題

各自のパラグラフ課題の文章から、いちばん複雑な文を選んで下線を引く。その文を構文解析したうえ、わかりやすく書き直す。

## 2　構文解析とは

**文 (sentence):**　文章のなかで、句点（またはピリオド）で区切られたひとまとまりの部分。

**構文解析 (parsing):**　文の構成要素同士の修飾関係を分析すること。

**文節:**　自立語ひとつに0個以上の付属語が接続したひとまとまり。ただし、付属語とは助詞および助動詞、自立語とはそれら以外の全品詞をさす。形式体言（こと・もの……）、形式用言（ある・いる・みる……）は自立語とみなす。さ行変格活用動詞はひとつの自立語とみなす（名詞に「する」がついたものとは考えない）。複合動詞や連語はひとつの自立語とみなす。

文節に切りわけてみよう

- さよならだけが人生だ。
- 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

**係り受け:**　文節間の修飾－被修飾関係。

例：

| | | |
|---|---|---|
| 道を－歩く | 月が－沈む | 目で－見る |
| 駅に－行く | 家から－出る | 早く－食べる |
| 頭が－痛い | 屋根より－高い | |
| 大きな－手 | 私の－本 | すごく－大きい |

**構文木:**　文節間の係り受け関係を図に表したもの。修飾する（係る）文節を左に、修飾される（受ける）文節を右において、係り受け関係を線で示す

例：これらの図を使って説明すると、学生は日本文における「主語」の不在をすんなりと理解してくれる。

構文木の、いちばん右の、枝分かれしていない部分を「根」(root) という。上の例でいうと、「理解してくれる」が根である。

**並列構造:** 文のなかに、文法上同格の要素が隣り合わせに配置されていることがある。このような場合、並列の要素を上下にならべ、四角で囲んで線で区分する。

例：調査は仙台と福島でおこなった。

例：私は○○を助手席に乗せ、車を走らせた。

## 3 単純な文

構文がある程度以上複雑になると、非常に読みづらくなる: 枝わかれが多い、枝が長い、並列構造のなかに複雑な枝わかれがある、枝の先に並列構造がある、係り受けや同格関係が確定できない、など。

**対策:** 余計な文節を削る、枝を切り落として独立させる、並列構造の中身を小さくする、読点などの記号を活用する、注や箇条書きや表を活用する。

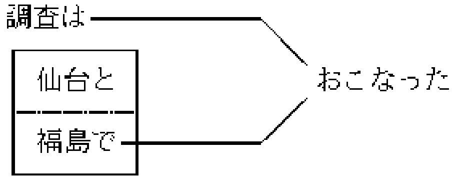
## 4 宿題

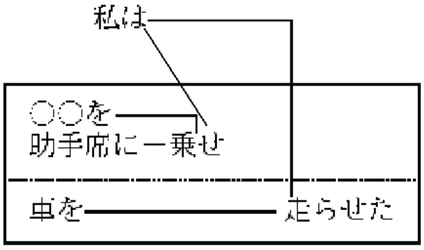
自分自身の文の構文解析を完成させ、文を書き直す。

# 第 5 講　構文解析 (追加資料)

## 並列構造をふくむ構文木の例

例：調査は仙台と福島でおこなった。




例：私は○○を助手席に乗せ、車を走らせた。